

おとしよりが豊かにくらせる町にしましょう



5月28日(火)に町、養老警察署、養老郡医師会、養老歯科医師会、海津・養老薬剤師会、町居宅介護支援事業者連絡協議会、町社会福祉協議会の間で「地域で守る高齢者総合対策に関する協定」を締結しました。この協定は、締結者同士が相互に緊密な連携を図り、高齢者が安心して暮らせるまちづくりの実現を目的としています。

大竹康寛署長は「町内においても高齢者が被害者となる特殊詐欺事案や高齢者による交通事故が多く発生しており、喫緊の課題となっています。『おとしよりが豊かにくらせる町』としていくため、地域全体で高齢者を守っていくという意識を広げていきましょう」と話しました。

ヨロカン号で養老公園をゆったり観光



5月11日(土)から養老鉄道養老駅と養老公園を結ぶシャトルカートである「ヨロカン号」の運行を開始しました。毎週土・日曜日と祝日に運行しており、利用は予約不要で無料です。現在、養老公園に訪れる観光客のほとんどがマイカーで来園していますが、「ヨロカン号」の導入により駅と公園のアクセスを向上させ、養老鉄道の利用者を増やすことで二酸化炭素の排出削減が期待されます。

走行中は車内のタブレット端末で町の魅力や養老孝子伝説などが紹介され、養老公園内の名所をゆったりと巡りながら駅と公園を結びます。皆さまのご利用をお待ちしています。

ひとり1スポーツ 誰もがスポーツに親しめるまちを目指して



5月26日(日)に町総合体育館において、(公財)町スポーツ連盟主催の養老町制施行70周年記念 養老町スポーツ大会総合開会式が開催されました。本町では、昭和62年に「スポーツの町の宣言」を行い、1町民1スポーツのまち・養老を基本理念とし、スポーツをとおして地域とのつながりを深め、心身ともに健康でいられるよう、誰もがスポーツに親しめるまちづくりを関係団体と協力し、推進しています。

開会式では、町ゲートボール協会の川瀬政義選手が「スポーツマンシップにのっとり正々堂々と競技に臨みます」と宣誓しました。

命を守る行動を



5月16日(木)に広幡小学校で養老警察署と養老地区交通安全協会により、全校児童を対象とした交通安全教室が開催され、自転車の安全な走行、ヘルメットの確実な着用、横断歩道の渡り方など、命を守るために必要な「正しい交通ルールやマナー」についての講話を聞きました。この教室は町内全小学校で実施されています。

西脇武敏協会長は講話の中で「横断歩道を渡る時には、青信号であっても車が絶対に止まってくれるとは限りません。命を守るため、車が来ていないことや停止していることを必ず確認して道路を渡りましょう」と呼びかけ、県交通安全協会イメージキャラクターのこあんちゃんと一緒に交通安全を訴えかけました。